

表彰

神奈川県医師会学術功労者表彰をいただきました

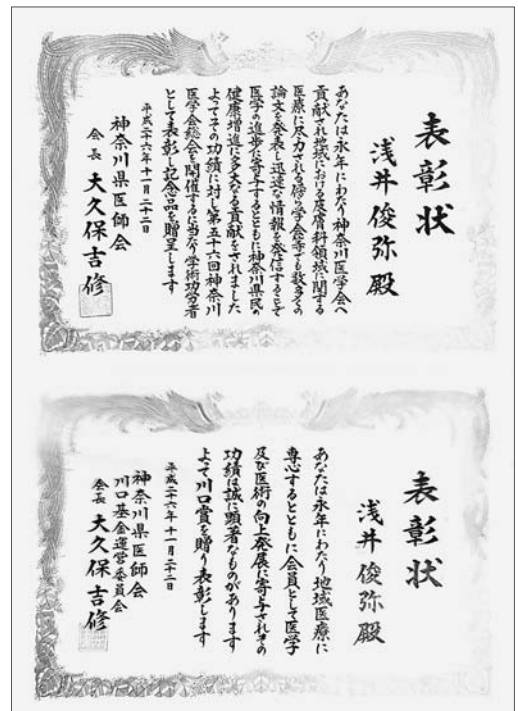
浅井皮膚科クリニック 浅井俊弥

昨年11月22日、第56回神奈川医学会総会の席上、神奈川県医師会より学術功労者として表彰を受けました。また、併せて神奈川県医師会川口基金運営委員会から、川口賞をいただきました。ひとりの開業医として、県民の健康増進に貢献したと評価をいただいたことは、大変名誉なことと思っています。神奈川県皮膚科医会は、神奈川県医師会の分科会としての一面があります。鎌田英明会長には、神奈川県医師会の分科会の会合で、私の「売り込み」をしていただいたと聞いております。ほかにも書類を準備していただきました川口博史幹事長など、多くの先生方の力添えがなければ、受賞には至らなかったと思います。鎌田会長はじめ、ご推薦いただきました神奈川県皮膚科医会の皆さまに、深謝いたします。

ここからは本音トークになります。雑誌「皮膚病診療」に月1回、「皮膚科のトリビア」というコラムを掲載しています。毎月5～6編、学会や講演会で聞いた、主として皮膚科診療に係わる耳寄りな話や新しい知識を紹介するものです。平成17（2005）年の7月からスタートし、今年で10年、掲載回数は100回を越えました。そろそろネタ切れかと思うこともあるのですが、医学は日進月歩で、新しいことはまだまだたくさんありそうです。ところで、学術功労者としての審査のために、過去5年間の実績を提出するのですが、「皮膚科のトリビア」が月1回掲載誌の別冊が来ますので、それだけで60編。皮膚病診療はテーマに沿って、学会のプログラムから抜粋した症例の原稿を依頼する方式なので、他誌に掲載済みなどで原稿を断られたときに、どうしても穴埋めが必要で、editorに加えていただいてからは症例報告を書く機会も増えていました。また、数年前までは、企業主催の講演バブルで、地方の皮膚科医会や医師会での講演も少なくなく、講演で使ったパワポの1枚目を拾い集める作業が必要でした。面倒な仕事だなあと思いつつ、せっかく声を掛けていただいたので、そ



神皮例会での記念写真
後列左より：増田智栄子副会長、川口博史幹事長、渡辺知雄神奈川県医師会監事
前列左より：毛利忍横浜市皮膚科医会会長、浅井、鎌田英明会長



学術功労者の表彰状（上）と川口賞の表彰状（下）

れに報いようと、だらだらとでしたが、何とかまとめることができました。

もう一つ、今回、神奈川県皮膚科医会以外にも、保土ヶ谷区医師会と横浜市皮膚科医会を通して、横浜市医師会からも推薦をいただきました。横浜市医師会では情報システム部会に10年携わり、また昨年までは、横浜市医師会の臨床学術部会に、横浜市医師会から参加させていただいていましたので、顔見知りも多く、快く推薦状を書いてくださいました。

ということで、皆さまのお力添えで受賞させていただいたのですが、皆さんがお祝いをしてくださるので、そちらの方がうれしかったです。12月7日の神皮例会で、まず、最初のお祝いをしていただき、そのあとも、横浜市医師会の賀詞交換会、保土ヶ谷区医師会の新年会、横浜市医師会の情報システム部会、横浜市皮膚科医会総会と、本当に、皆さんがお祝いしてくださるので、面倒だなどとブツブツ言っていたことを反省しております。

最後に、今後の神皮会員のために書いておきますが、学術功労者表彰の頂き物は大きな楯と表彰状ですが、川口賞は表彰状とバッジと、金五万円でした。なお、昨年11月22日の土曜、昼からの表彰式だったのですが、前日の午後から、仙台で開催されていた日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会に出席していたため、朝、仙台を発っての逆出張でした。表彰式のあと、また仙台に戻り、日曜に帰ってきたわけですが、JR東日本の「週末パス」という切符があり、土曜・日曜の2日間は乗り放題（普通列車のみ利用可能）です。結局、土・日で横浜～仙台を片道計3回使ったのですが、確か切符代は8,500円ぐらいだったと思います。お徳感150%、こういう時には是非、ご利用ください。

